



## 猪のように果敢に猛進 新年の飛躍誓い 新春交歓会

新年の幕開けを祝う新春交歓会が1月11日に町公民館で開かれ、町民の皆さんら約200人が参加しました。年頭のあいさつでは、薄町長が「新たなまちづくりに果敢に猛進していきたい」と抱負を述べ、来賓の皆さんとともに威勢よく鏡開きを行いました。出席した皆さんは、振る舞われた料理などを味わいながら、新年の一層の飛躍を誓い合っていました。



## 西会津小で「租税教室」 税金の大切さを考え、学ぶ

1月17日、町の税務担当職員を講師に西会津小で租税教室が開かれました。受講した6年生の皆さんは、税金がなかったらどのような世の中になるかを描いたDVDを鑑賞し、税金がなぜ必要なのか、また、どんなことに使われているのかを考え、学びました。教室の最後には、児童らが一億円のレプリカを手を持ち、どのくらいの金額なのか体験しました。



## 年末の伝統行事を体験 元気によいしょ！こども園で餅つき

12月27日にこゆりこども園で餅つきが行われました。この餅つきは、園児らに年末の伝統行事を体験してもらうために毎年開催している行事です。当日は、園長先生らが力強い餅つきを見せた後、園児らが普段なかなか持つ機会のない杵を手に、「よいしょ、よいしょ」と元気に餅つきを体験しました。この日ついた餅は、上手に丸めて鏡餅にしました。



## 西高生がボランティア指導員に 西高生が学習会で小中学生を指導

西会津中で開催された小中学生の秋季学習会に西高生7人がボランティア指導員として参加しました。この学習会参加は、町の「地域学校協働活動事業」の一環で、全12日間の日程のうち5回に西高生が参加しました。日頃授業を受ける立場の高校生にとっては、教えることに戸惑いもあったようですが、自分の勉強方法を振り返る良い機会にもなったようでした。



1月18日から19日にかけて西会津小と豊間小との冬季交流が行われ、両校の5年生の児童らが夏季交流以来5カ月ぶりに再会しました。児童らは、初日にスノーハイキングやそりすべりなどを行ったほか、2日目には、晴れ渡った空の下で雪遊びやスノーモービルなどを思い切り楽しみ、雪国の冬を体験しました。

「別れの集い」では、豊間小の柳井寧音さんが「会津の冬を体験し、自然の素晴らしさや厳しさを知ることができました。また遊びに来たいです」と感想を発表し、西会津小の齋藤遥さんが「みんなと楽しい2日間を過ごせてよかったです。これからも仲良くしたい」と交流を振り返りました。

最後は、西会津小の児童らが「また西会津町へ来てくなんしょー」のメッセージを掲げ、別れを惜しみながら豊間小の児童らを見送りました。

みんなで一緒に過ごした時間は本当に楽しかった様子で、いつまでも記憶に残る最高の思い出となったようでした。

いわき市立豊間小との冬季交流から  
雪国・西会津で再会、  
記憶に残る思い出に



感謝状を受け取る長谷川さん（写真提供：西会津交番）

交通安全や防犯活動などに貢献

## 喜多方警察署長から感謝状

平成 30 年に警察業務などに貢献した功労者への感謝状贈呈式が昨年の 12 月 28 日に喜多方警察署で行われ、町内では次の皆さんに感謝状が贈られました。

【団体】一般社団法人西会津ケーブルネット〔警察広報活動への協力〕、西会津町消防団〔捜索や火災予防など警察業務への協力〕【個人】長谷川幸夫さん（安座）〔西会津交番の環境美化に対する功労〕



舞い上がる炎に 1 年の無病息災願う

## 町内各地区で伝統行事「歳の神」

小正月の伝統行事「歳の神」が 1 月 13 日～15 日にかけて町内各地で行われました。10 町内では、地域の皆さんが昼間に高さ約 5 ㍎の歳の神を作り、午後 6 時に神事を行った後、厄年の皆さんなどが点火しました。火は勢いよく燃え上がり、参加した皆さんは餅やスルメをあぶりながら、高く舞い上がる炎に 1 年の無病息災などを祈願していました。



埼玉女子短期大学の学生が訪問

## 短大生がこども園で読み聞かせ

12 月 19 日に埼玉女子短期大の学生がこゆりこども園を訪れ、自分たちで作ったオリジナルの絵本の読み聞かせを行いました。皆さんは、国際コミュニケーション学科、エアライン・ホスピタリティコースの学生で、福島の花々をあしらった特別塗装機「東北フラワージェット」をきっかけに、機体に描かれている町のオトメユリの保護活動などにも参加しています。



町の支援で新しいボートを購入

## 西高ボート部に新艇導入

昨年 12 月、西会津高校ボート部に新艇が導入されました。今回導入したのは「シングルスカル」という一人乗り競技用のボートで、ボディカラーは深紅。荻野漕艇場にあるボートとしては珍しいカラーリングでとても目立っています。新艇は町の支援を受けて購入したので、ボート部員は町への恩返しも含め、来シーズンの活躍を誓い合っていました。

30 数年ぶりに野沢中央通りで開催

## 縁起物求め初市にぎわう

恒例の野沢初市が 1 月 13 日に開かれ、縁起物の起き上がり小法師や風車などを求める大勢の人でにぎわいました。

野沢の初市は天候が悪い「荒れ市」といわれますが、今年は時折青空がのぞく穏やかな天候の下での開催となりました。午前 11 時から神事が行われた後、関係者らが鏡開きを行い今年一年の商売繁盛や商店街の活性化などを祈願し、来場者を歓迎する「福まき」や「大抽選会」などのイベントも行われました。また、大山さゆり太鼓の皆さんによる力強い太鼓演奏も会場を盛り上げました。

今年の初市は 30 数年ぶりに野沢中央通りで開かれ、軒を連ねた露店に家族連れなどが列をつくりました。

↓餅やお菓子などの福まき。中には「当たり」付きの餅も！



↑会場を盛り上げた太鼓演奏



↑大勢の人でにぎわいました

↓老人クラブの皆さんなどを対象に町役場で行った講演会



↑ KURA. (クラドット) で開催した講演会



↑ 講師のこばやしあやなさん

雪国でのサウナの可能性を探る

## フィンランド式サウナ講演会

1 月 10 日、フィンランド在住のサウナ文化研究家・こばやしあやなさんが町役場と町内飲食店で書籍「公衆サウナの国フィンランド：街と人をあたためる、古くて新しいサードプレイス」の発刊記念講演会を開催しました。

講演では、こばやしさんが自身の体験を交えながら写真や映像でフィンランドの文化と生活様式を紹介し、日本におけるフィンランド式サウナでのまちおこしの可能性について話しました。訪れた皆さんは興味深そうに講演に聞き入り、日本の暮らしと重ね合わせていました。

この講演会は、町地域おこし協力隊の佐々木祐子隊員が企画したもので、佐々木隊員は「冬を楽しく乗り切るアイデアとなれば」と話しました。

サウナは風呂のライバルではなく、さまざまな暮らしや産業と結びつく可能性があるものです。